

耳の聞こえの検査

学科・専攻： 関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻
担当教員： 森 尚彫、不破 真也
辰巳 郁子

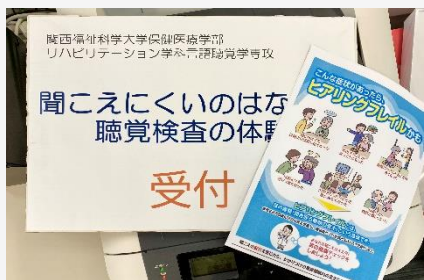
連携先： 関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻

プログラム内容

地域在住の健常高齢者を対象として聴力検査を行います。聞こえに関する疑問の解消や定期的な聴力チェック(健康チェック)に役立てていただき、耳鼻咽喉科受診や補聴器販売店への相談のきっかけになればと考えています(医学的な診断は行いません)。言語聴覚学専攻の教員の指導のもと、学生有志が、聴力検査機器の操作、結果の簡単な説明、参加者の誘導や受付業務を担当します。講義や演習で学修した聴力検査を実際に施行し、高齢者とのかかわり方なども体験的に学ぶことを目的としています。

成果・考察

本プログラムは令和6年3月14日(木)13時00分~14時30分、4号館404教室を会場に「聞こえにくいのはなぜ?聴覚検査の体験」として開催した。聴覚検査体験の参加者は柏原市内の高齢者3名(附属整形外科リハビリ診療所で募集)でした。言語聴覚専攻科学生12名(2年生2名)が聴覚検査のテスターと受付・誘導及び接遇の担当として参加しました。言語聴覚専攻科の森准教授による加齢性の難聴と聴覚検査についての検査目的を説明した後、森准教授のもと学生が1名ずつ順番に検査を実施し、参加者に検査を体験していただきました。参加者には検査結果をお渡しし、森准教授がゆっくり時間を取って検査結果の説明および質問に回答しました。



関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
森 尚彫 准教授

今年も地域の方に参加していただき、学生は貴重な経験ができたと思います。

検査前には言語聴覚学専攻の学生と地域の高齢者とのフリートークを行い、臨床実習を控えた学生にとって良い体験となったと考えています。実際の高齢者の方とお話して検査を行うことも、授業では経験できない学びになると思います。この経験を実習に活かして頑張ってもらいたいと思います。

関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 2年生
廣瀬 友芽 (2023.3.18現在)

初めて補聴器を付けている人に対しての検査を行いました。私が思っている以上に大きな声で話さないといけないと学びました。簡潔に伝えて相手が聞くことを負担にならないよう工夫をするべきであったと感じました。

今回の貴重な経験を通して、結果が出るモニター画面だけでなく実際に相手の様子を見ながら行うべきだと感じました。また、物音の配慮や伝達手段の工夫を考えて演習授業でも活かしていきたいです。